

科学研究費補助金（基盤研究（S））事後評価

課題番号	16107005	研究期間	平成16年度～平成20年度
研究課題名	局在mRNAと誘導的細胞間相互作用によるホヤ胚発生の制御	研究代表者 (所属・職)	西田 宏記（大阪大学・大学院理学研究科・教授）

【平成22年度 事後評価結果】

評価		評価基準
○	A+	期待以上の研究の進展があった
	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い
<p>(意見等)</p> <p>ホヤ胚は、そのモザイク性から細胞の発生運命決定機構を研究する上でのユニークな研究材料である。本研究は、ホヤ胚のもつ利点と研究代表者の巧みな実験技法を活かして、「母性局在mRNAの解析」と「誘導応答能の制御と非対称分裂の制御機構の解析」を主要なテーマとして研究を進めたものである。その結果、CAB形成における <i>POPK-1</i> の機能、不等分裂における <i>PENmRNA</i> の機能、脊索誘導における <i>Zic</i> および <i>FoxA</i> の機能を明らかにするとともに、中胚葉分化における <i>NotmRNA</i> の非対称分配を発見するなど、予想を上回る研究成果を挙げた。また当該成果を、評価の高い国際誌に着実に発表している点も高く評価できる。</p>		